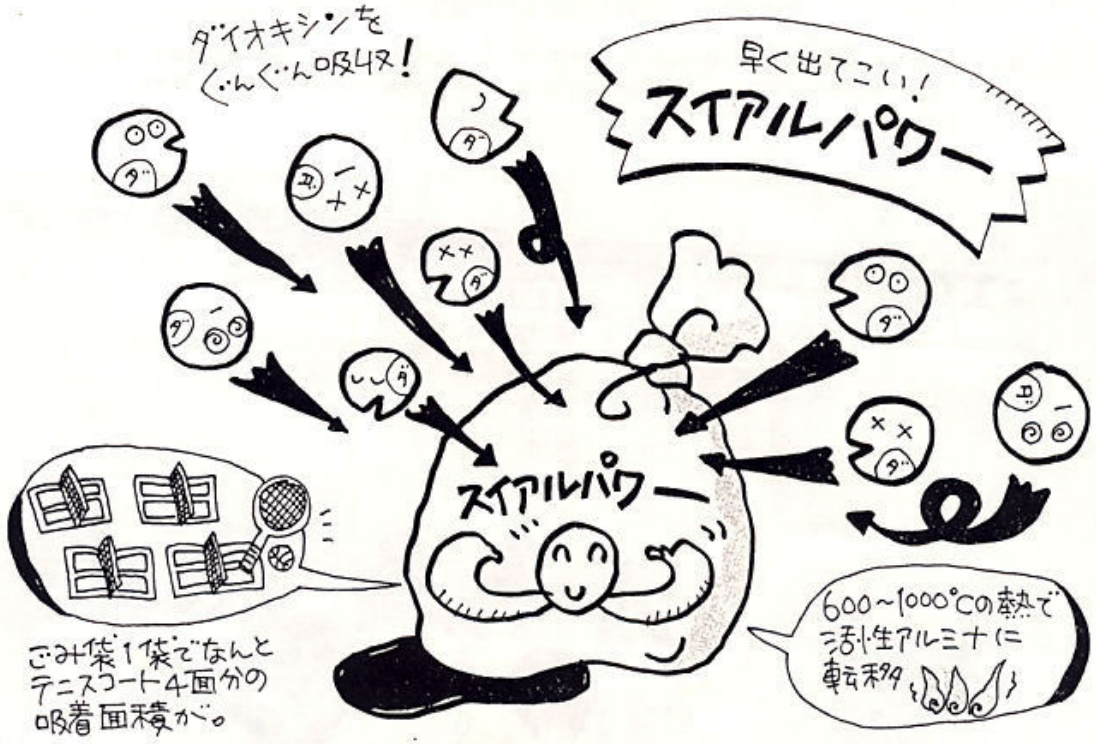
No.4
1998.2

ごみを減らそう!!



イラスト／森さつき

gomi情報最前線

猛毒ダイオキシンによる環境、人体汚染問題が話題を集めている中、心強い味方が開発された。その名も「スイアルパワー」と名付けられた樹脂フィルムで、ごみ焼却時にダイオキシンなど環境汚染物質の放出を抑制する働きがあるという。「スイアルパワー」のどこがどう、環境の味方なのか。原材料に用いられた水酸化アルミニウムが加熱されると活性アルミナに変化、この活性アルミナはスポンジのような多孔体で吸着力を持つ。焼却炉内で発生するダイオキシン、重金属類などの汚染物質を吸い込んでくれるというわけだ。1997年2月世界保健機関（WHO）が発がん性を確認、4月には厚生省が、ダイオキシンを排出しているごみ処理場を実名で発表後、全国最高値の990ナノグラムを排出した兵庫県宍粟郡など各地で浮上するダイオキシン問題の改善策としては「スイアルパワー」は、願ったりかなったり。ただ残念なことに一般消費者の手に入るのはまだ先になりそうで「当面、自治体向けに商品化していきたい」と開発にあたった（株）日本グリーンパックス（長岡京市）の担当者は話している。市場に出回る日を首を長くして待ってますよ。スイアルパワーくん!

※1ナノグラムは、10億分の1グラムです。

ダイオキシン

有機塩素化合物のポリ塩化ジベンゾパラジオキシンとポリ塩化ジベンゾフランの総称。210種類の異性体がある。特に2・3・7・8-四塩化ダイオキシンは人類が作り出した最強の毒物といわれ、WHOは発がん性を認めている。

京都市ごみ減量推進会議

巻頭
座談会

空き缶徹底討論会 in ごみアート展
～空き缶社会に未来はあるのか～

空き缶をはじめ容器包装材をテーマにした討論会の模様を誌上で再現。
空き缶には一言ありの顔ぶれで論議に花が咲いた。

■コーディネーター　高月　紘氏　■パネリスト　伊藤さかえ氏　勝田邦夫氏　谷芳一氏　藤川要藏氏　堀 孝弘氏
■時／平成9年11月24日（月）振替休日午後2時～4時　■会場／元京都市立立誠小学校講堂

昭和62年からスタートした空き缶分別
平成４年には全市で実施（藤川氏）

高月●空き缶に限らず広く飲料容器全般に触れながらごみ問題について議論を進めていきましょう。平成９年４月、容器包装リサイクル法が施行された経緯から最初に京都市の回収状況等について京都市の藤川室長さんからお願いしましょう。

藤川●空き缶の分別収集は横大路学園ができた昭和62年からスタート、平成４年に全市で体制が整いました。びんは平成８年10月、ペットボトルと紙パックは平成９年10月から開始。平成９年４月施行された「容器包装リサイクル法」では、市民が分別して所定の場所に出し、行政が収集して選別・圧縮梱包等の中間処理をし、事業者が再商品化していく仕組みです。平成12年にはトレーなどプラスチック類、紙製の容器包装材、段ボールの分別収集の実施が予定されていますが、再商品化の方法や分別の基準などが国段階で未確定で市では国が早く方針を出すよう求めています。京都市の缶とびんの収集量は昨年で約９千トンです。

高月●京都市の流れを踏まえて、地域で取り組んでこられた伊藤さんのご意見を伺いましょう。

高月　紘（たかつき　ひろし）氏

京都大学環境保全センター教授。通販包装、ごみ問題などを研究。京都市のごみ減量対策をはじめ数々のごみ問題に取り組んでいる。TV・新聞などマスコミへの登場のほか、講演依頼も相次いでいる。High Moonのペンネームで地球環境保全をテーマとした漫画を描き「ゴミック「廃貴物」」「絵コロジー」などの出版物も多数ある。

まずは自分の足下のごみからと、めぐるくんの店を軸に活動を始めた（伊藤氏）

伊藤●昭和42年今の北清掃工場が22億で建設されるということで、私たちがごみ減らしをすればその分の予算を有効利用してもらえるのではと始めたわけです。昭和49年オイルショック時には大丸、高島屋などの4百貨店が「ノー包装」に踏み切ったものの、50年代に入るとまた元の木阿弥に…。よそのごみを拾いに行くよりも、自分の足下のごみから拾ってみようやないかと考えました。平成9年1月に下鴨・葵・松ヶ崎地区ごみ減量推進会議を結成したわけですが、3学区が同じ体制で動くのは、容易ではありません。私は「めぐるくんの店」を一つの軸にして地域を立ち上げていこうと「めぐるくんの店」の入会勧誘から試みました。1年半かかって102店舗の加入があり、それを軸にPTAの会長や校長先生、社会福祉協議会の会長などの協力を得て結成にこぎ着けました。4月はリサイクル展を行い、5月は再生紙商品のセールを。8月からは家庭の天ぷら油の廃油の回収を月1回実践しています。

高月●京都市ごみ減量推進会議の中に、各々の地域でごみを減らしていこうという組織があり、その第1号が伊藤さんの下鴨・葵・松ヶ崎地区ごみ減量推進会議です。次は、実際ビール製造に携わる勝田さん、容器包装リサイクル法に伴う動きを教えてください。

軽量リターナルびんで資源の減量化、二酸化炭素の排出抑制の一助にも（勝田氏）

勝田●容器包装リサイクル法に関連した、環境に適応する包装容器設計ガイドと、従来からのキリンビールの環境ガイドラインに基づいてごみ減量に取り組んでいます。現在びんはリターナブルでリサイクル率は99%。資源の減量化を目指し、94年に軽量リターナルびんを函館にて導入したのを皮切りに、最近は首都圏の方まで普及しています。605gから475gに軽量化したことで、物流に関してもコストの削減、二酸化炭素排出の抑制と相乗効果を得ました。もちろん再生可能なので、今後も全国的に広めていき再資源化につなげたい。リサイクルを推進する容器補償金制度は従来から取り入れています。不要になって役目を終えたびんを砕いたカレットは新しいびんに再生利用しています。それ以外でも建材用軽量骨材に再生する事業にも着手し多用途利用に努めていますが、用途先がなかなか見つからないという現実問題を抱えています。また、再使用及び再充填制を追及した包装容器の設計指針を取り決めて、単一素材、再生材料、環境負荷の少ない包装材の使用も進めている段階です。

伊藤さかえ氏

1929年（昭和5年）京都市立専修学校英語初等科修了。主婦連合会にて長年活動を続け、現在京都支部長を務める。京都市女性会議運営委員など85歳の今も多方面で活躍。京都市ごみ減量推進会議理事、下鴨・葵・松ヶ崎地区ごみ減量推進会議理事として貢献している。

身を削ってびんを回収。なのに回収しないディスカウントが流行るとは…（谷氏）

谷●びんの回収率は99%といわれますが、現実に回収しているのは酒屋で、メーカーは制度を作っただけです（笑）。空びん1本605g。大変重い。多くの酒屋の従業員が腰をこわし、身を削りながらリサイクルに貢献してます。びんの回収については、飲食店など、どうせ返すもんやからと汚い状態で置きっぱなし、ついでにごみも入れてたりと、回収業務はいわゆる3Kです。中でも再生不可能なウイスキーのびんなどは、当然メーカーには引き取ってもらえず、酒屋自身がびんを割って回収業者に渡してます。店のコストで回収もして処理もして…。売りっぱなしできたら楽でいいなと思ってたら、ディスカウントスーパーがそれで大成功しました。残念ながら売りっぱなしで回収もせんと。価格破壊いうて、お客さんそっちに流れるわ、腰こわすわ、潰れるかもしれんわともう大変です。

高月●想像はできましたが、実際ディスカウントショップが出てきて大変な状態になっているのがよくわかりました。次は、堀さんお願いします。

日本は缶飲料消費大国。年間384億缶も消費しています。（堀氏）

堀●ヨーロッパではリサイクルの責任をメーカーに持たすことで、リターナブルなど

勝田邦夫（かつだ　くにお）氏

キリンビール（株）京都工場・総務担当サービス課課長代理。1969年キリンビール（株）入社、パッケージング課、エンジニアリング関係などの仕事を経て95年1月現職に。ビール・飲料水製造における環境負荷の低減、容器包装の省資源化など、企業全体としての環境保全活動を担当している。

を選択しやすくしています。ドイツではびん、ペットボトルなど74％が再使用容器で販売されています。缶は、量は多くありませんがデポジット料金が付いてます。日本一国で消費している缶飲料は384億缶（96年）。西ヨーロッパ全部ひっくるめた量の約1.5倍です。先進国といわれながら日本は全く違う社会を作っているんです。先程売りっぱなしは楽だという話がありましたが、後々の事にも責任を持つ社会を築くことが大切。リターナブル容器を推進するメーカーと、リサイクルなど全くかえりみないメーカーが、同じ条件に立てる社会でないと。ヨーロッパを中心に環境先進国といわれる国がいくつかありますがその実践は、やればできるという勇気を与えてくれます。

高月●飲料容器といえば日本の場合、使い捨ての缶がほとんどです。どんどん売られ使い捨てられる缶。何かいい方策がないかということを議論の焦点にしていきましょう。

主婦連でアルミ缶の回収をしていた、続けるにはストックヤードが必要（伊藤氏）

伊藤●主婦連では1昨年の2月までアルミ缶だけを回収していました。当初、1kg90円で問屋に買ってもらっていましたが、バブル崩壊後、1kg70円に下がり、最低200kgからという回収条件も採算ベースに乗らないからと300kgからになりました。家の裏の空き家をストックヤードにして続けていましたが、入居者が決まり止めざるを得ませんでした。300kgもの空き缶を置くためには大変なストックヤードがいります。また、缶の中でもアルミは100％ビール缶になりますが、スチールはお金にならず扱いにくかった。ですからスチール缶の場合、きれいに洗って空き缶ポストに放り込んできたというのが現実です。

消費者のニーズに応えた製造を。皆さんのモラルがリサイクル率を変える（勝田氏）

勝田●最近の当社の容器構成比はびん41％、缶47％、樽関係12％。もちろん環境を考えた取り組みをしていますが、最終的には消費者のニーズに応えた製造をしていくのがメーカー側の立場です。環境を考えるならリターナブルびんを主流にするべきですが、それでは生き残っていけない。現在、アルミ缶のリサイクル率は、データの提供先により若干数字が異なりますが、70％台です。残り30％をいかに進めていくかが今後の課題です。ただ、皆さんのモラルの徹底と向上があれば、この数字も大きく変わっていくのではないかと。環境の意識を持ってきちんと回収箱に入れ、また回収ルートにのせてリサイクルに回していただくことでご協力をお願いしたい。経済的には、アルミ缶を製造する際のエネルギーの使用量を100とした場合、回収したアルミ缶から製造する時にはその3で済みます。ほとんどの資源を輸入に頼っていることを考えても、やはりリサイクルが日本の経済にも大きな効果をもたらすのではないでしょうか。

高月●リサイクル率が出てきましたが、実際京都市では缶が他のごみとどれくらいの比率で分けられているのですか。

ごみの中に入っている資源ごみはまだ多い、市民の協力率は53％（藤川氏）

藤川●市民の協力率ですね。毎月地点を決めてごみの組成調査をしています。一定の所帯数から出てくるごみの中身を仕訳し、缶・びん・ペットボトル等の資源ごみがどれくらいの率で含まれているかを計ります。家庭ごみの中に入っているものと、資源ごみとして回収したごみとを併せて協力率を算出。平成7年度は46.4％、平成8年度は缶で約53％でした。

高月●分別を呼びかけ、曜日を設けて収集しても50％少々の協力率。分別を徹底するのは大変難しいということが実感されます。

リサイクル率70％台?!業界と自治体の数字に大きな食い違い（堀氏）

堀●去年業界が発表したリサイクル率はスチール缶77.3％、アルミ缶70.2％。京都市の協

堀　孝弘（ほり　たかひろ）氏

環境市民スタッフ。日本で指折りの環境NGOとして知られる環境市民の評議員として業務にあたっている。グリーンコンシューマー委員会のリーダーでもある。ごみの原因となる容器包装材についても調査を進め、講師に出向くことも多い。著作に「日本のおもちゃ・アニメはこれでいいのか」がある。

藤川要蔵（ふじかわ　ようぞう）氏

京都市清掃局ごみ減量リサイクル推進室長。1997年4月より現職。就任以来、秘密書類リサイクル事業をはじめ、フリーマーケットの開催、天ぷら油の回収事業などに取り組み、自ら陣頭指揮をとってごみ減量を進めている。

力率が今年に入ってやっと50％を超えたという話。それに、リサイクル法ができる以前はまだ3分の1の市町村が回収してなかったという事実から考えても、この7、8割というリサイクル率が実感できず調査することに…。平成7年空き缶処理対策協会がリサイクルしたスチール缶は105万トン。年度はずれますが、全国都市清掃会議が各地の自治体から回収したスチール缶は40万トン。この60何万トンの差、誰が回収してるのか。伊藤さんのように市民団体が集めてたにしてもこの差は大きすぎる。実際は発表されてるリサイクル率よりもっと低いだろうと思います。また、今回のリサイクル法は行政主体の回収方法が選択されましたが、行政以外のルートも考えていかなくてはいけないでしょう。飲む人自身の負担ももう少し必要でしょうね。

高月●空き缶条例の時、デポジットの議論をしました。その後の見解をお願いします。

缶を出すときのマナーが悪すぎるけがをしながら空き缶を分けた（伊藤氏）

伊藤●昭和56年10月に空き缶条例が制定されましたが、その時は酒販店の方がデポジットに猛反対されました。現実に京都市で空き缶収集が実施されたのは昭和62年でした。容器包装リサイクル法の稼働後、メーカーは容器の責任を取ろうとかなりの設備投資をしています。そういった動きを少し見守った上でデポジットを考えた方がいいのではないかと。デポジットが導入されても10円20円だったら皆豊かですから、めんどくさい捨てとこかということになりかねません。ただ、私がカンカンに怒ってますのは、皆さんのマナーが悪すぎるということなのです。横大路学園を見学に行った時、糖尿病の人が家で打つインシュリンの針が空き缶に入っていたりして、園児たちはけがをしながら選別しています。その作業のことまでも含めて缶の問題を考えないと。これからは皆さんのポリシーが非常に大切になってきます。

中途半端なデポ料金では現状は変わらない。384億缶という数字は皆さんの欲望（谷氏）

谷●デポジット料金は中途半端でなく、1本100円の飲料に対して200円、30

0円程度あってもいいと思います。例えばハイキングに行って自動販売機でジュース買ったとして家族4人で440円。もしデポジットが200円のってすぐ換金出来なければ家族4人で1200円。ちょっと辞めとこか、それなら近所の酒屋で買って水筒に詰めて持っていこかとなるのでは。その場で冷たいジュースを飲みたい、帰りは手ぶらで帰りたいという生活を求める皆さんの欲望が、384億缶という大変な数字に変わったわけです。それと、デポジットが導入されたら、どこで換金するかということが問題があります。ドイツのような広い土地があればいいが、特に京都の町中では現実的でないでしょうね。

高月●室長さん、もうデポジットは京都市ではタブーだという話も出てますが。

60トン日処理する施設の建設に36億円だれがどう負担するのか…（藤川氏）

藤川●家庭からごみを回収するのに1トン約3万3千円かかります。そこへ選別して再資源化ルートにのせるまでの経費をプラスしなくてはなりません。また、横大路学園だけでは処理しきれず、今新施設を建設しています。ほとんどのラインを機械で選別するこの工場では、1日に60トン処理するのに約36億円の建設費がかかります。さらに、ごみ処理に相当なコストが必要です。誰がどのように負担していくのかが課題。2000年から家電の4製品（適正処理困難物）を新しい法律に基づき、消費者に物を売るとき、または回収するときに経費を負担してもらい、事業者の方でリサイクルしていこうという動きがあります。また、全国の都市清掃会議ではデポジット制を国の制度として検討していくべきだという要望を出しています。

谷　芳一（たに　よしかず）氏

柾木屋酒店副店主。空きびんの回収に骨身をけずりつつ、地球環境保全について学び、リターナルびんによる販売に前向きに取り組んできた。町の酒販店として容器包装材の回収に直接係わってきた。

リサイクル費用はデポジットで。飲んだ人自身が負担すれば…（堀氏）

高月●関西の方でデポジットの法案を考えるネットワークが出来たそうですが…。

堀●今年4月、東京で消費者団体が集い、デポジット法制定全国ネットワークをつくりました。関西でも11月に市民団体、個人、酒屋さん等で話し合いを進めており、現在枚方市議会が国にデポジット法の制定を求める意見書を出しています。デポジットで大事なのは、缶など使い捨て用品には売価の中にリサイクル費用が入ってませんが、ビールびんなどリターナブル商品には含まれています。これって不公平ですね。するとリターナブルで売るとハンディになるので、リサイクル費用を税金で負担しようと。しかし、缶飲料にしても384億缶、年間1人1日1本ほどですが、中には年間300何本も飲んでいる人もいます。なのに税金は同じだけ払っている。そうでなく、ビールびんのように容器そのものにリサイクル費用が含まれていていいのではないかと思うのです。

高月●では会場の方のご発言をいただきたいと思います。

男性●京都市の3種混合の回収についてですが、びんも缶も全部放り込んで一緒に収集するとびんが割れたりして労働条件も悪くなるのではないか。それとリサイクルに回したものがどこにつながるのかを明確にして、もっと市民の意識を啓発してほしい。デポも強制でなく徐々に浸透していくような方向でやっていただきたい。

高月●多くの大都市では3種を混合して集め、後から分けるという仕組みを採用していますが、京都市が採用した理由は？

藤川●非常に厳しい財政状況、限られた職員、器材の中で効率良く回収するならば、3種混合の袋だしが一番望ましかったのです。というのも、分別回収がスタートするまでに、缶はアルミとスチールに、びんは3種に分けてもらうなどのテストをモデル地区で行いましたが、異物の混入や選別が不十分で収集したものをもう一度分けなければならなかった。選別するなら3つも2つも一緒ですから、3回集めて回る手間を1回にし、今秋から週1に回収日を増やしていますが、そのように回収率を上げる方法で取り組んでいます。今でも汚れたまま出されることが多く困っています。皆さんにはマナーを守っていただき、我々は回収率を上げていく、この2つを最優先でしています。啓発に関しては、関心のある方は自主的に回収もしていただいていますが、無関心層は家庭のごみの中にまだ一緒に入れているという現状。市民しんぶんやチラシなどでPRしても読んでもらえない。ですから、地域の組織をもっとつくり、コミュニティの中で伝達していくのが効果的だと考えています。

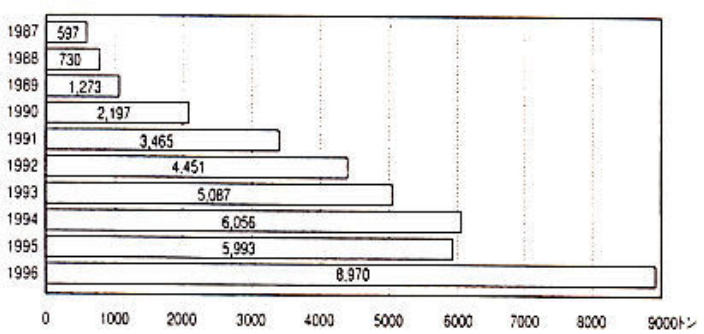
男性●東京、名古屋、川崎では実際に缶・びんは分けて収集しています。清掃局の人達が地域に入り込み、顔を合わせる中で説得していきました。僕らからお願いするのは厚かましいのですが、そういう進め方で是非やっていただきたい。

下鴨地域では3種別々の回収を検討中
住民参加で分別ごみ収集を。（伊藤氏）

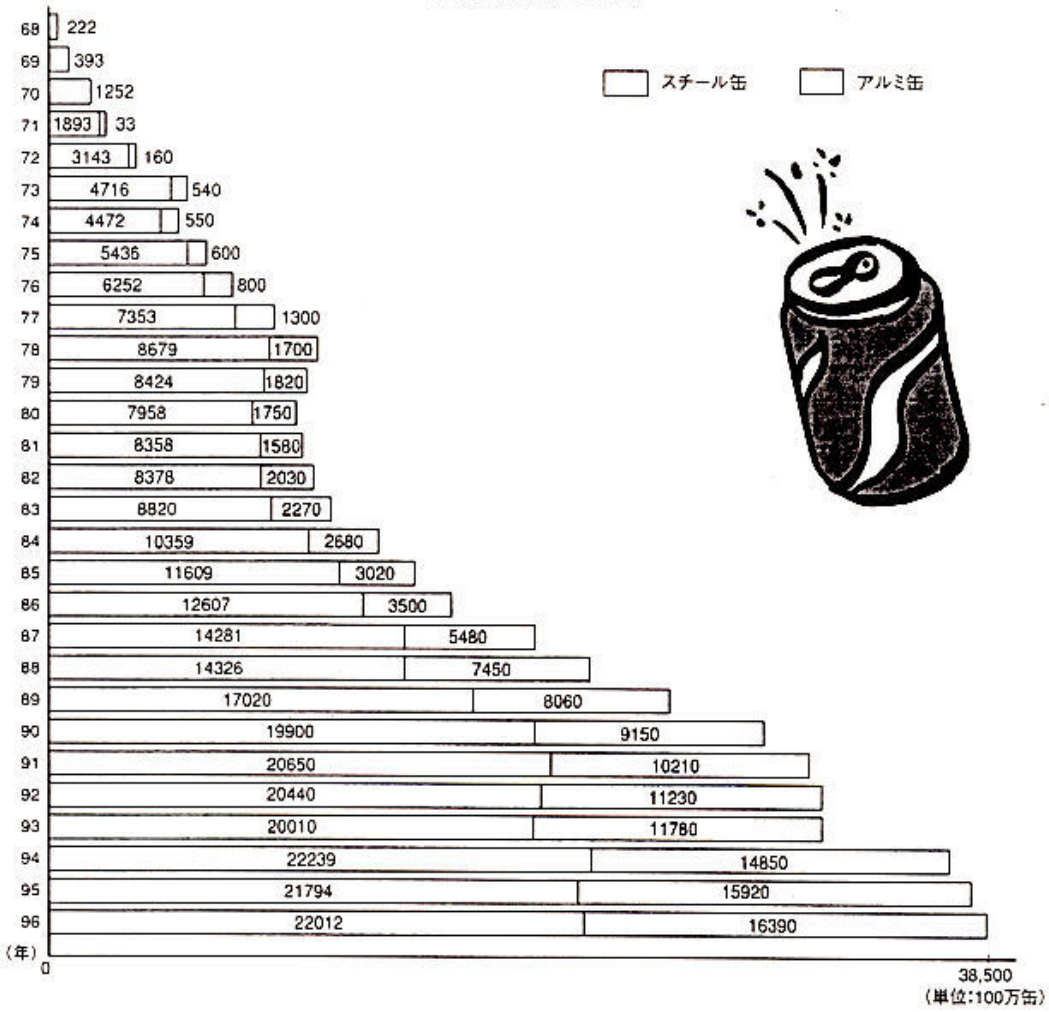
伊藤●下鴨・葵・松ケ崎地区ごみ減量推進会議ではテストケースとして、住民サイドで3種別々の回収ができないかと考えているところです。というのも、清掃局では透明な袋に入れろと言いますが、3種一緒に入れるような大きな袋はどこを探してもありません。京都市が斡旋もしないで透明袋に入れなさいというのは無理なのです。買い物には袋の持参を推進していますが、消費者はスーパーの袋で利用しています。回収時にはドンゴロスという1m四方の折り畳み袋を使って、3学区当番制で実施してはと思います。中には、何のために税金払ってるんや、行政がやればいいという方もいますが、京都市は2010年までにCO2を10%削減すると宣言しています。私達も協力するためには住民参加で回収しないと。暗黙のうちに無関心層も巻き込んでいく地域をつくりたいと取り組んでいます。

高月●10数年前に空き缶条例制定でデポジットの問題を議論させていただいた時とだいぶ雰囲気が変わっています。以前は小売り代表の方ははちまきしてデポジットには絶対反対という姿勢で、ごみは市町村の責任だから一切受け付けないという状態だったんですが、我々消費者がいろんな提案することによって、行政も事業者の方も一緒になって考えられる場ができつつあります。各事業者、行政の方も様々な試みをし、その情報をオープンにして、皆さんと一緒に考えていく姿勢をとっていただきたいと思います。

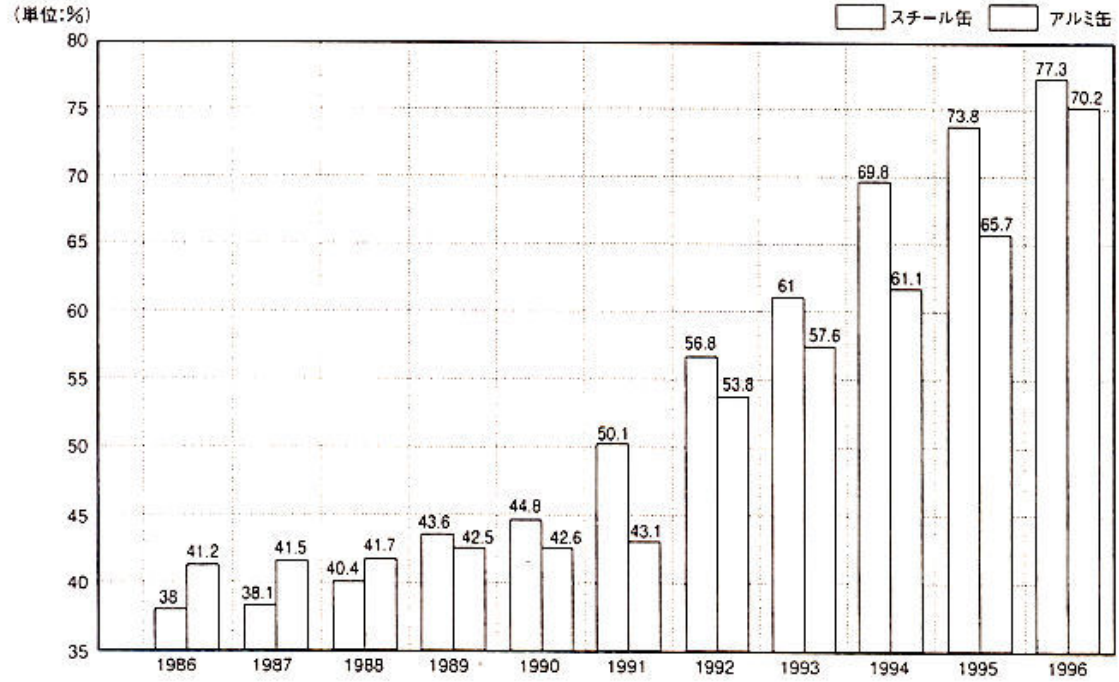
空き缶・空きびん分別収集（京都市）



缶飲料消費量の推移



空き缶回収率の推移



※「缶飲料消費量の推移」,「空き缶回収率の推移」ともに空き缶処理対策協会，アルミ缶リサイクル協会のデータによるものです。

もっと再生紙を利用して　昨年末の理事会で緊急アピールを採択

古紙は森林資源の保護とリサイクルの優等生として評価されてきた。ところが近年、古紙の再利用が進まないことから、回収を一時中止する事態が現出している。古紙回収量が再生量を上回り、在庫が増加、古紙価格が下落し、業者が採算割れを起こしたからだ。

せっかく根付いてきた古紙回収システムが危機に瀕している現実を深刻に受け止め、昨年の京都市ごみ減量推進会議・第4回理事会にて「再生紙の利用促進のための緊急アピール」を採択し、市民、事業者へ再生紙の利用拡大に向けた積極的な協力を呼び掛けることにした。

「再生紙の利用促進の緊急アピール」に伴う具体的行動目標の設定

1. 事業者向け再生紙利用ガイドラインの設定による再生紙の利用拡大

① 全業種共通の最重点品目の設定

業種を問わず広く使用されている品目であるコピー用紙を最重点品目として位置付け、「古紙配合率70％以上・白色度70以下」のものを利用するよう呼び掛ける。

② 業種別重点品目の設定

特定の業種において使用量が多く見込まれる品目について、業種別に利用促進重点品目を掲げ、関係事業者団体等を通して事業者への利用協力を呼び掛ける。

2. 販売事業者への古紙使用製品の販売促進の協力要請

販売事業者に対し、「グリーン購入月間」等のセール期間の設定や各店舗での「グリーン購入コーナー」の設置等により、古紙使用製品の販売促進について協力を依頼する。

3. 新聞・出版業界や大学関係機関など大口使用者への再生紙利用の呼び掛け

古紙配合率が高く、白色度の低い再生紙の使用拡大を呼び掛ける。

4. 市民、市民団体への家庭での古紙使用製品の消費拡大の呼び掛け

市民が家庭で使用する衛生用紙のトイレットペーパー・ティッシュペーパーを、再生紙利用促進の重点品目とし、「古紙配合率100％」の製品を使用するよう広く呼び掛ける。

（業種別重点品目の設定例）

業　種	対象事業所	重点品目
一般	コンピュータ使用事業所	フォーム用紙（電算出力用紙）
金融・保険業	銀行・信用金庫・証券会社	封筒（顧客配布用金券入れ）
小売販売業	百貨店・スーパー・小売店	包装紙、手提げ袋（ショッピングバッグ）、梱包箱、レジ袋、折り込み広告
医療業	病院・診療所	カルテ用紙
宣伝業	広告代理店	ポスター、パンフレット、チラシ等
旅行業	旅行会社	ポスター、パンフレット、チラシ等
通信販売業	通信販売会社	ダイレクトメール、カタログ等
飲食業	レストラン・飲食店	トイレットペーパー
ホテル旅館業	ホテル等宿泊施設	トイレットペーパー、ティッシュペーパー

京都市ごみ減量推進会議　緊急アピール

資源保護とリサイクルの推進のために、再生紙の利用を促進しよう

12月1日から始まった「地球温暖化防止京都会議」は、温室効果ガスの排出量を先進国全体で2008～2012年の間に1990年比で5.2％削減する議定書を採択し、11日に閉幕しました。

私たちには、地球市民として、今こそ地球の温暖化を防止する行動を起こしていくことが求められています。

その一つとして、資源循環型社会の構築を目指して、ごみの減量とリサイクルの推進を一層すすめていかねばなりません。

リサイクルを円滑に進めるためには、資源を積極的に回収するとともに、回収した資源を再生品として確実に利用することによって「リサイクルの輪」を繋いでいくことが必要であります。

森林資源の保護とリサイクルの優等生であった「古紙」は、近年、資源回収量が再生量を上回り、古紙の余剰と価格の低迷が続き、回収業者による回収や集団回収が成り立たない状態が現出するなど、リサイクルの推進にとって極めて深刻な事態となっています。

こうした状況を打開するためには、再生紙の利用の拡大が不可欠であります。

市民・事業者・行政のパートナーシップの下に、ごみの減量とリサイクルの推進に取り組んでいる「京都市ごみ減量推進会議」の会員は、自ら率先して、家庭や職場、学校などで、再生紙の利用をすすめるとともに、市民・事業者一人ひとりが、もっと再生紙を利用していただくよう積極的に呼び掛けていきます。

さらに、国及び製紙メーカーに対して、古紙の利用促進のための有効な取組を早急に確立するよう要望するものであります。

平成9年12月26日

NEWS

「環境にいいショッピング袋って?」3月に環境学習会を開催

買い物の度に何げなくもらってるショッピング袋。1枚のショッピング袋のもつ環境への影響を考え、地球への加害者にならない袋や、ごみを出さない生活様式について語り合う環境学習会を、3月7日（土）午後2時からルビノ京都堀川で開く。

「環境にいいショッピング袋って?」と題する学習会では、昨年、J.E.E.とふろしき研究会が、京都大学環境保全センター高月　紘教授の協力を得て、ショッピング袋の成分を調査した結果の紹介も交え、今後のあり方を模索していく。高月教授から調査の論評、日本工業大学の佐藤茂夫助教授からごみ焼却灰中に及ぼすレジ袋の影響についての講演がある。京都デザイン協会の竹林善孝氏はデザイナーの立場から発言をする予定だ。参加無料。

■日　時　3月7日（土）午後2時～4時
■場　所　ルビノ京都堀川3階「アムール」
京都市上京区東堀川下長者町下る
（☎075・432・6161）
※当日会場にお越しください（先着約50名）
※問い合わせ　京都市ごみ減量推進会議事務局
☎075(222)4091

KBS京都「京都大好きラジオ」出演者募集中！

京都市ごみ減量推進会議では、平成8年度のラジオ媒体によるキャンペーンの好評を受け、本年度も広報活動の一環としてごみ減量を呼びかける。KBS京都ラジオ番組「京都大好きラジオ」（月～木・午後1時～3時45分）の1コーナーを通し、自薦・他薦による出演者がごみ減量への意見や要望などを月曜日のジェフ・バーグランドをはじめとするパーソナリティと語ることになる。

この機会にラジオを通して、日頃思っていること、実行していること、他の人に紹介したいことなどをコミュニケーションしてみては?放送期間は、2月中旬～3月中旬の1カ月間を予定している。出演希望者は、ハガキに名前、住所、出演希望と書いて

〒602-8588
KBS京都ラジオ「京都大好きラジオ」係へ。
FAX　075（441）0360でも受付。
期間外でもいつでも受け付けてくれる。

みんな集まれ!!

京の始末自慢シリーズ④　漬け物

「お茶漬けガサガサ、お香々バリバリ」。京の食生活は、この言葉に凝縮されてきたといえるのかも知れない。朝も昼も夜も何がなくともお茶漬けがあればそれで十分だった。そのお茶漬けの友が漬け物だ。貴重な保存食でもあり、発酵という過程を経ることによる栄養の付加もあり、漬け物を漬けることはその家の一大事業であったことだろう。京の町屋には、その昔漬け物小屋というスペースが存在したという。町屋の奥の蔵の近くに小屋があり、そこに樽が並んでいるのが目に浮かぶようである。至って風通しがよく、保存にはもってこいで、母屋に匂いが流れ込むこともなかった。毎年、大根が採れる11月になると漬け物づくりがはじまった。近くのお百姓さん（八百屋の場合もあった）がやってきてまず一樽だけを漬ける。家の者は、その漬け方を手本に二樽目を仕上げた。「二樽も漬けてもらうなんてもったいない」ということなのだろう。その家の娘はこの作業から離れることは許されなかった。「よう見とおき」と強制されたという。京のお茶漬けの友、漬け物の味はこうして伝授されていったというのだが、平成の今、漬け物を家で漬ける習慣が残っていることやら…。

漬け物屋が至る所に増え、柚子入り、あっさり漬けなど種類も豊富な中から小さなパック入りで手軽に買えるのが現代だ。13の政令指定都市中最も高い京都市のエンゲル係数（平成7年度）を見ると、お茶漬けと漬け物に象徴される始末心を見直してはと思う。

行政からのお知らせ

1997年夏、回収システム事業化を探る 事業系廃棄物分別収集モデル実験を実施

京都市は昨年夏、市内の中小事業所を対象に、ごみ分別回収モデル実験を行った。回収システムの事業化に向けてその方向性を検討することを目的にしたもので、事業系ごみ収集運搬に携わる「一般廃棄物処理業許可業者」の組合である京都清掃業協同組合の青年部の協力により約300の事業所において実施した。

空きびん、空き缶、ペットボトル、紙パック、古紙類のごみをそれぞれに適う袋または出し方で分別し、その排出量を調査。また同時に分別対象外のごみ（生ごみ等）については混入状況を調べた。実験終了後、アンケートを行い意見をまとめた。

実験は、8月9月の2カ月間に3回、それぞれ1週間実施した。1回目は飲食店、食品・物品販売店が中心。2回目は商店街、3回目はホテル、オフィス、製造・卸業などを対象にした。なお、回収実験の結果から試算すると、平成8年度の業者収集ごみ（255,957トン／年）を基準に考えれば事業系ごみの約8%にあたる20,000トン程度の減量効果が期待できる。実験後に行ったアンケートでは、問題点として分別品の保管スペースの確保、分別にかかる手間、社員への分別の徹底等が挙げられた。しかし分別は今後もすべきという意見が多く条件付きも加えると72.9%にも上った。

■ごみ及び資源化物の排出量

（単位:kg営業日数1日）

	分別前ごみ排出量	分別排出実験期間中の排出量（異物混入含む）						
		空きびん	空き缶	紙パック	ペットボトル	古紙類	資源計	生ごみ等
1回目	1650.92	63.90	55.26	5.03	9.48	134.52	268.19	1385.43
2回目	1061.48	41.94	54.38	2.90	6.20	35.34	140.76	978.85
3回目	471.39	12.56	19.77	0.70	3.59	14.45	51.07	415.05

注）すべて営業日数1日あたりに換算した数値である。

■分別排出への協力状況（協力率）

	分別排出実験期間中ネット資源化物排出量					
	空きびん	空き缶	紙パック	ペットボトル	古紙類	資源計
分別回収排出(kg)	106.75	113.48	5.09	12.88	184.31	422.51
生ごみ中への混入(kg)	17.88	13.21	3.93	5.18	183.30	223.50
分別協力率	85.7%	89.6%	56.4%	71.3%	50.1%	65.4%

注）すべて営業日数1日あたりに換算した数値である。

空きびん／業務用びん、飲料水のびん、食品・調味料のびん、日用品のびん（化粧品を除く）
空き缶／業務用缶、一斗缶、飲料水の缶、缶箱・缶詰
紙パック／業務用及び一般用のアルミコーティング無しの500ml以上のもの
ペットボトル／業務用及び一般用で、飲料水及び醤油のボトルで500ml以上のもの
古紙類／段ボール、部品等紙箱、雑誌、新聞紙、折り込み広告、印刷残紙、管理・営業の分類中の上質紙

■分別排出への意見（重複回答あり）

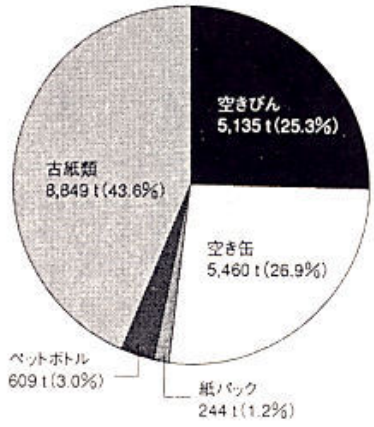
1.分別排出を行う上で問題となったことは？

①分別品の保管スペースの確保	39.8%
②他のごみと分ける手間	38.1%
③洗ったりキャップをとる手間	22.9%
④社員への分別排出の徹底	21.2%
⑤特に問題なし	19.5%

2.ごみ分別排出についてどう思われますか？

①今後共続けるべきだが、分別品目数を少なくするなどの工夫はして欲しい	39.8%
②ごみの資源化を進めるため、今後共続けるべきである	33.1%
③分別分別の手間や保管スペースの確保の面から、協力は難しい	22.9%

■回収予測量（試算）と品目別回収量



[回収予測量]
平成8年度の許可業者収集量255,957t/年×61%（中小事業所排出量割合※）×13.0%（回収率）=20,297t/年（回収予測量）
※「一般廃棄物処理基本計画策定に係る調査」から

REPORT

無駄をできるだけ少なくした
ごみアート展のごみ減らし策

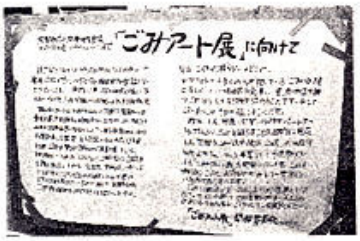
昨年11月15日（土）～24日（月）10日間にわたって開催された「ごみアート展」。期間中、監視員、受付など多くのボランティアの参加に伴い、弁当容器をはじめ相当量のごみの排出が心配された。しかし、京都市ごみ減量推進会議が主催するからにはごみは最小限にしなくては主旨に反すると、ごみアート展開催委員会ではアイディアをひねりいろいろなごみ減らし策を実践した。

段ボール紙のスタッフカードがごみ減らし策のシンボル

ごみアート展に参加した方は胸に掲げるスタッフカードに驚かれたことだろう。なんと段ボール製。ボランティアの方々、招待作家、審査員などこのカードを胸に飾った。新しいものを購入するのは避けよう。使い古しか、捨てられてしまうものを使おう。必要なものは持っている人に借りよう。そんな精神が、このカードに脈打っていた。

225食分の容器をごみにしないために容器回収型の仕出し式弁当を利用

「ごみをいっぱい出したごみアート展」といわれないための策を催しの企画運営にあたったごみアート展開催委員会で練った。展示室の監視、受付など10日間にわたる事業（搬入搬出を加えると17日間）であったため参加ボランティアは延べ213人にのぼった。



しかも午前中のみの参加、午後のみの参加の方それぞれに弁当を支給したため、弁当の総数は225食に。使い捨て容器の弁当なら相当量のごみが出る。そこで、仕出し式で何度でも使えるプラスチック製容器の弁当を頼むことにした。食べ終わった容器は翌日配達時に回収してくれる。それに配達車から大きなプラスチック容器ににまとめて運ばれるためポリ袋も要らない。割り箸が付いてきたが使用せず、借りた塗り箸を使ってもらった。ボランティア参加者には茶と水筒持参を呼びかけておいたため、持参組も少なくなかった。

昼食時、休憩時のお茶。多くのイベントでは、缶やペットボトル飲料と決まっている。今回は、お茶は水筒持参でと呼びかけ、さらに事務局となった図書室にポット2個を用意、お茶を自由に飲めるようにした。もちろん、使い捨ての紙コップではなく、陶器製の湯飲みを30個程借りて、繰り返し使った。

展示やDMには、牛乳紙パック100%再生紙チラシには、新聞古紙100%再生紙を使用

ごみアート展では、紙の使用は最小限にした。選んだのは牛乳紙パック100%再生紙だった。岐阜県美濃市の共同作業所から取り寄せた手漉きである。企画主旨、オープニングセレモニーの招待状、子どもたちのごみアートコンテストの表彰状などにこの紙を使用した。パネルは一切使用せず、段ボールにそのまま貼り付けたりした。

また、催しの告知チラシはエコペーパー（新聞古紙100%再生紙）を用い、化学インクではなく大豆油インクを用いて印刷した。

傷だらけの画板、古い机や椅子あるものはできるだけ活用して

ごみアート展の会場は、3年前に閉校になった元京都市立立誠小学校。懐かしさあふれる空間の特性を生かして、器具や什器類のリースは最小限に留めた。校内にある道具を生かし会場をしつらえていった。受付のテーブルは古い机、アーティストの路歴は、傷だらけの画板に貼り付けた。子どもたちのごみアートコンテストの会場設営は、古いピアノを中心にありあわせの椅子、机、卓球台などを活用した。スリッパも50足分きれいに洗い再利用した。

会場アプローチの看板、それぞれの招待作家の入り口の看板については、器具をリースし、最終日業者に持ち帰ってもらった。

招待作家、子どもたちのごみアート作品は各自で持ち帰ってもらった

「ところでごみアート作品はどうなったの？廃棄したのでは？」こんな質問が少なくなかったが、今回はすべて参加者各自に引き取ってもらったので、会場には1点の作品も残らなかった。

あれこれ工夫したもののやはりごみゼロというわけにはいかない。事務書類、菓子・砂糖類の袋などごみは出てくる。期間中、排出したごみは関係者が各自持ち帰り処理をした。

完璧ではないにしても、催しにおけるごみ減らしのひとつの試みとして今回の「ごみアート展」のごみ減らし策を参考にしてもらえたらと思う。

新聞紙でフラワーを作って飾った。

ごみ調査隊が行く

空き缶・空きびんの混合収集

出し方に問題あり。

京都市ごみ減量推進員経験者で構成される「めぐるくん推進友の会」は、平成9年7月と8月の2回、空き缶・空きびん分別収集に関するアンケートを行った。

きちんと出されているのだろうか？収集する人の安全も心配で…。

「容器包装リサイクル法」の施行に先立ち、京都市は、平成8年10月から空き缶・空きびんの混合収集をスタートさせた。

集めた後、溶かして再び缶になったり、その他の用途の原材料として用いられる空き缶と色分けして細かく砕き、カレットとして再びびんの原材料として用いられる空きびん。リサイクルできる代表的な包装材だ。この2つはリサイクル方法が異なり、経費的、人的な問題さえ解決すれば別々に収集するのもひとつの方法といえる。しかし、現実を考え、京都市では各地区で行ってきたモデル回収実験を経て混合収集に落ち着いた経緯を持っている。

空き缶・空きびんの分別ごみ収集は、出すことを一戸一戸徹底していくのもごみ減量に欠かせないが、出す時のマナーの浸透、出し方の知識普及も重要だ。出し方如何によってごみ収集作業に係わる人がケガをしたり、収集後の作業で思わぬ負担がかかったりするからだ。ところが、きちんと分別ごみ収集に出すのは、かなり手間が要る。まず、出せる物と出せない物の仕分け。きれいに洗わなくてはいけない、キャップはずしてからなど、注意事項もあれこれあってかなりやこしい。啓発ビラが各戸に配られ、市民しんぶんなどで呼びかけられてはいても、ルールが守られているかどうかは疑わしい。注意事項を十分に読まない人、分かっていてもやらない人があって、出し方はバラバラというのが過去の実態だ

友の会会員が73の収集場所をチェック。平成9年7・8月の動向を調べた。

めぐるくん推進友の会では、7月、全市11区の72拠点、8月、73拠点における状況を調べていった。7月、8月を選んだのは、缶・びんが増える時期であること、2カ月にわたることで徹底の動向をうかがうことができること。この2つがポイントになった。

調査にあたって、質問項目を設定することにした。まず、空き缶・空きびんの全体量を把握すること。そして分別の意識が高まったかどうかを知るための項目を設定した。とくに、危険物をはじめ、指定外の異物の混入については9項目にわたってチェックすることにした。調査は、めぐるくん推進友の会会員全員に呼びかけ、そのうち73名があたった。総数12,000の収集場所に対し、72~73箇所の調査ではあるが、その状況が分かったので、全体の状況はこれを基礎に予想すればいい。

多くがスーパーの袋で出している。行政は透明な袋と指導しているのだが。

まず調査をした空き缶・空きびんの量について。7月の約22,190個（容積約44,380ℓ）に対して、8月は、さらに増えて約26,610個（容積約53,220ℓ）。総数48,800個、容積約97,600ℓだ。

空き缶・空きびんは、中身の見える丈夫なポリ袋、に入れて出すようにと京都市から要望が

めぐるくん推進友の会
代表幹事　山内　真氏

出されている。しかし、透明な袋はどの店にも置かれていない。専用袋の販売システムは、確立しておらず袋の使用については市民の自主性に任されている。実態はどうなのか？知りたいところだが…。想像どおり、多くがスーパーの袋を使っていた。45ℓ入りの青いポリ袋もかなり使われていた。「透明な袋が市場に出回っていないこともあるが、使いやすいことが大きな理由では。長い取っ手が付いていて結びやすく、収集場所まで持ち運びも楽にですからね。収集する人も持ちやすく、安全ですし…」とは代表幹事の山内さん。「しかし、ここまでスーパーの袋、青い袋が多いとは…。半透明でもあり中が見えるので、さほど問題にならないのかも知れないが、黒い袋だけは止めないと。これはゼロになるよう指導していきたい」と続ける。（Q1・Q2参照）

Q1.空き缶・空きビンを入れて出してある袋の数がおよそ何個位ありましたか？

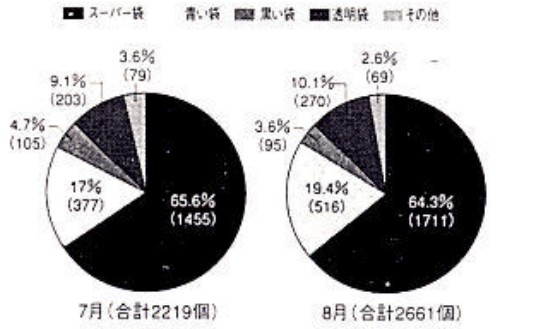
	7月	8月	合計
北	211	253	464
上京	171	168	339
左京	213	195	408
中京	55	57	112
東山	80	38	128
山科	512	606	1118
下京	37	202	239
南	152	162	314
右京	297	339	636
西京	241	347	588
伏見	250	294	544
合計	2,219	2,661	4,880

リターナブルびんまでもがごみに。出す側の知識不足の証明だ。

意外や意外。リターナブルびんがこんなにもだされているのだ。洗って何度でも使うリターナブルびんは、ごみ減量の優等生。その知識が浸透していない事実に驚くやらあきれるやら。穴を開けてから家庭ごみに出すよう指示されているカセットボンベなども多く出されていた。（Q3・参照）

空きびんのキャップの取り外しについても、きちんとはずされていたのは、2割程度。残りの8割は、一部だけかもしくははずされていないという回答を得た。キャップに関しての救いは、7月より8月の方がはずされていた割合が高まっていること。出す側の意識向上の現れととらえていいのかも知れない。（Q4・参照）

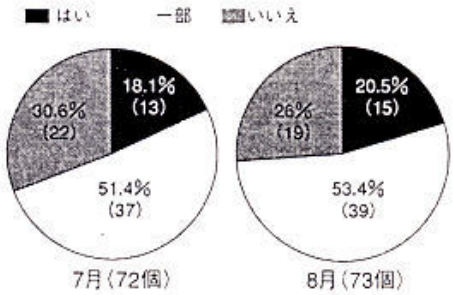
Q2.空き缶・空きビンはどんな袋に入れて出されていましたか？



Q3.指定の飲料用の缶・びん以外にどんな物が出されていましたか？

	7月	8月
ビールびん、一升びんなどのリターナブルびん	23	25
ペットボトル	13	13
カセットガスボンベ、スプレー缶	8	9
ペットボトル以外のプラスチック類	3	9
化粧品のびん	9	8
新聞紙、雑誌、段ボール等の紙類	4	7
ガラス、瀬戸物、蛍光灯など	2	5
生ごみ	3	2
危険な物（注射針、釘、刃物など）	0	1
その他（ミルク・砂糖・クッキーの缶、なべ、バーベキュウ用鉄板、割れたびん他）	16	8
	81	87

Q4.空きびんのキャップははずされていましたか？



他人に迷惑をかけない出し方の普及をめぐるくん推進友の会で手がけたい。

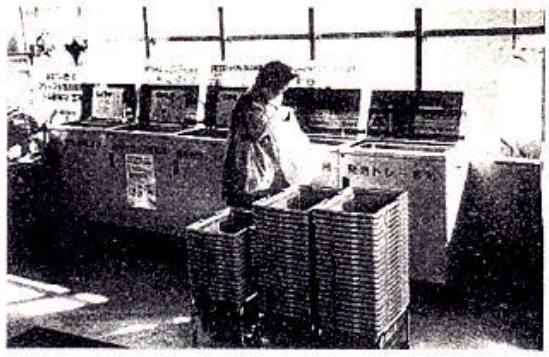
調査を通して、見えてきたことがいろいろある。とくに空き缶・空きびん収集に対して、出し方の基本知識が普及していないという事実は悩みが大きい。なんらかの対応が急務であろう。「会員が収集日当日現場に立ってチェックしたり、出し方のアドバイスをするなど知識普及に協力していきたい」と山内さんは決意の程を語った。

京都市ごみ減量推進会議の会員なら、左記のようなライフスタイルを持ちたい。

- 缶飲料はできるだけ買わないようにしよう。（水筒を持って歩くのも一つの方法）
- できるだけリターナブルできるびんや飲料を買おう。
- 空き缶・空きびんは、資源だととらえ、ルールを守ってリサイクルしよう。

Q6.京都市の混合収集について、どのようにお気づきですか？

	7月	8月
分別・保管が楽である	11	11
きれいに収集されている	25	26
やはりびんが割れるのが心配	27	32
やはり缶とびんは分別するのがいいと思う	39	35
市民がようやく理解し始めたように思う	24	23
市民の啓発がまだまだ向上していない	33	29
啓発文書が多く出されているがもう少し工夫が必要	21	24
その他（根気のよい啓発など）	1	1
	181	181



PETボトル、トレーなどを店頭にて回収、実績を上げている。

Series 会員探訪

現在140に達している京都市ごみ減量推進会議の会員。それぞれにごみ減量への取組があるにちがいありません。知恵と工夫にあふれた活動に学ぶことは、ごみ減量への取組をさらに活発化させる上で、大いにプラス。ごみ減量に前向きな会員を訪ねていきました。

KYOTO COOP 京都生活協同組合

京都生活協同組合

Q 貴団体では、総合的な環境活動を推進されていると聞きましたが？

A 1991年「環境政策」を策定し、生産、流通、消費、廃棄の連鎖をトータルに視野に入れた科学的な活動の展開などを基本姿勢に独自の環境事業活動を展開しています。96年度は、環境マネジメント・監査制度を導入しました。それを進める体制として、環境事業推進委員会、課題別委員会を設けました。課題別委員会には容器・包装ガイドライン作りや使用削減対策に取り組んでいる容器包装削減委員会や事業系廃棄物削減委員会という組織もあります。

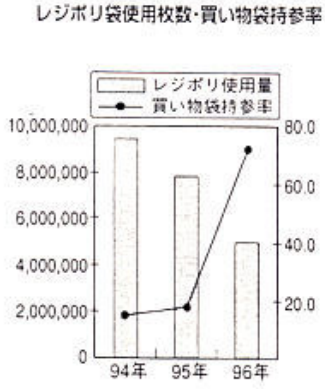
97年度は、CO2の排出削減、省資源・省エネルギー、事業系ごみ排出削減、大気汚染物質削減、リサイクル活動、環境商品の供給、環境教育の推進を行動の課題として活動しました。

Q 独自のお買物袋持参運動を進めておられるそうですね。どんな内容でどれだけ成果があったのでしょうか？

A お買物時に品物を入れるレジポリ袋については、これまで組合員へのサービスと位置づけていました。これを思いきって不要なサービスとうたえ、1996年7月より全店で有料制（レジポリ袋1枚を5円で販売）によるお買物袋持参運動を展開しました。お買物袋の持参率は7月以降72.6%に達し、来店者一人当たりのレジポリ袋使用枚数は、0.37枚に減少しました（95年度0.74枚、96年度実施以前は0.46枚）。無料レンタル袋の貸し出し、98円のトートバッグの供給も功を奏したようです。94年度使用実績からみると443万枚、95年度からみると272万枚の削減が実現しました。

Q リサイクルへの取り組みにも力を入れておられるとか？実績も上がってきているのでしょうね。

A 牛乳パック、トレー、PETボトル、空き缶、空きびんについては店頭で回収し、独自のリサイクルルートにのせて再商品化を進めています。組合員の協力とメーカーの理解によって順調に推移しています。96年度の店頭での回収量は過去最高になりました。私たちは、マテリアルリサイクルを目指し、ルートの開発に努めてきましたが、一例を挙げると、牛乳パックについては735%のリサイクル比率で、再生トイレットペーパーに活用しました。また、PETボトルについても独自に中間処理を行い、回収品の品質を高いレベルに保っています。今後さらに再商品化を拡大していきたいと考えています。



Q ダイオキシンの原因となるといわれている塩化ビニル製品についても方針を打ち出されていますが、どのようなことを進めておられるのですか？

A 具体的には、塩化ビニル容器・包装を使わないこと。京都生協の商品ラッピングについては、91年にポリエチレンラップへの切り替えが完了しています。また590品目の容器包装調査を改めて実施し、キャップシールやシュリンクラベルについて確認、23品目に塩ビが使われていましたので他の素材への変更へと改善を進めていきたいと思っています。

Q 1997年6月第一回環境アクションプラン大賞で栄えある賞に輝かれたとか？

A おかげさまで事業者の質の高い環境保全活動および環境報告書を表彰し、他の事業者への普及を目的に設定されたコンテスト（全国環境保全推進連合会主催、環境庁、国連大学、毎日新聞社後援）で、毎日新聞社賞を受賞いたしました。

再生紙などを集めた環境商品キャンペーンを実施

京都生活協同組合

所在地
〒601-8356
京都市南区吉祥院石原上川原町1-2
出資金104億円
組合員数42万3,017人（96年度）
事業内容
組合員への商品供給（共同購入、店舗事業）、カタログ販売事業、旅行・サービス事業、福祉活動、共済事業

京都府主催環境フェスティバルでブース参加。リアル・リンク京都をPRした。

リアル・リンク・京都

Q 企業経営者を中心としたグループだそうですが、どのようなきっかけで発足されたのですか？

A バブル経済がはじけ、企業経営者、特に零細企業である私達は大きな被害を受けましたが、同時に環境への加害者であったことを認識しました。企業人として、また一市民として何らかの形で社会に貢献していきたいという思いから活動を始めました。1993年の発足以来、"環境と経済の調和"をモットーに、勉強会をはじめ様々な活動を展開しています。

Q 具体的にどのような活動をされてきたのでしょうか？

A オゾン層破壊が指摘されるフロン問題に取り組もうと、「ストップ・フロン・きょうと」というネットワークをスタートさせ、シンポジウムを開催するほか、街頭での署名活動を通じて行政による回収システムの構築を目指しています。毎月1回勉強会を開き、会員の自己啓発に努めています。ソーラーシステムの導入や活用方法、製紙業を訪問してリサイクルシステムなど、毎回様々な視点から学習しています。

昨年11月には地球温暖化防止京都会議に向けた、「地球のうた・星めぐり音楽会」というコンサートを開きました。音楽を通じて環境問題を、より多くの人に身近に感じてもらおうというこの試みは大成功で、1400名以上の来場がありました。

Q 1年がかりでアンケート調査を実施されているそうですが、現段階での見解をお話いただけませんか。

A 昨年6月から今年5月まで、SCOP（大学生中心のNGOグループ）と共同で、毎月街頭アンケートを実施しています。地球温暖化防止京都会議の前後で、環境に対する人々の興味や協力率がどのように変動していくかに着目しています。アンケートの内容は、地球温暖化防止京都会議の名称を知ってるかどうかとか環境問題全般について尋ねるもの。その中に「日常生活において心がけている行為」という項目があり、ごみの分別・古紙回収・ごみの発生抑制を実施しているとの回答がありました。調査の回数を経る度に、ごみ問題に対する関心度・協力度が高まってきているのを実感しています。意識の流れをきっちり把握するためにも、毎月実施する意義があります。

SCOPと協力しあって環境に関するアンケートを実施。'97年10月京都まつりにて。

ごみ減量については私たちも、燃えるごみ・古紙・缶・びん・電池などの分別を職務で呼びかけ、また、コピー時のバックペーパーの利用についても実践しています。

Q 今後どのような取り組みを予定されていますか？

A アンケート調査の集大成をシンポジウム形式で発表しようと考えています。会議が開幕し、ある程度浸透した環境の知識を、次はどう行動へ移していくべきか、その糸口を調査結果から探ることができると思います。また、事業者も主婦も学生も、皆が同じ仲間として、一つのテーブルで話し合うという姿勢を今後も持ち続け、解決策を見いだしていきたい。

今年11月にはブエノスアイレスにて開催されるCOP4への参加も予定しています。

●お答えいただいた方
リアル・リンク・京都　会長　川島　健太郎
議長　青木　義照
スタッフ　羽川　由佳

環境にも経済にも良い方向を模索したいと語る川島健太郎会長

リアル・リンク京都

事務局
〒604-8375
京都市中京区西ノ京池ノ内町24-12
☎ 075-801-5629　FAX.075-822-9001
会長　川島　健太郎

1993年10月設立。リアル・リンクとは「本当のつながりの輪」という意味を持つ。94年ストップ・フロン・きょうとシンポジウムを開催。95年衆議院議長にストップフロン法制定を求める請願書を提出。96年地球環境セミナー実施。年末環境経済懇親会開催、他。

「ごみ」ご意見番

ごいけんばん

今回はごみを捨てずに生かすためのアイデアを、島秀子著「地球にやさしい家事のコツ」から紹介します。「資源は有限、知恵は無限。アイデアを生むコツさえわかれば、これほど楽しいものはない」とは著者のご意見。あなたも今日からごみ減らしを楽しんでみて。

地球にやさしい家事のコツ

―― ごみを生かすコツは4つのR ――

Refresh (リフレッシュ)	好みの色やデザインで模様替え。以前より美しく使いになそう。
Renew (リニュー)	機能不足な用品に一工夫。新しい価値を付けて蘇らせよう。
Remodel (リモデル)	形は生かして使い回し。別の目的で役立てよう。
Reform (リフォーム)	切ってつないで新しくつくる。役立つものに生まれ変わらせよう。

島秀子著「地球にやさしい家事のコツ」大和書房　1,500円

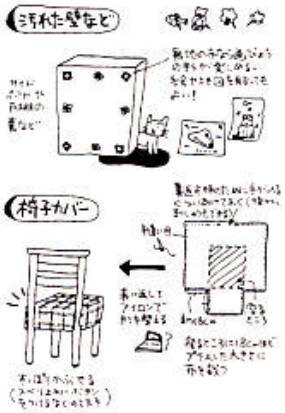
上手に修復、前より美しく

リフレッシュ

[汚れた壁や家具など]

木綿布一枚で素敵な空間に

●子供に落書きされた壁や戸棚の裏面なども、控え目な布を張れば新しい空間として生かせます。椅子のカバーは袋縫いにして、リバーシブルにすると丈夫で見栄えもよく、季節や来客に合わせて取り替えることができて便利。



工夫して、使い勝手よく

リニュー

[クリーニングハンガー]

二本合わせたら"服よろず"ハンガー

●余っているハンガーも二本束ねて使うと丈夫。これにリボンを結ぶと見た目ばかりか、新しい機能をプラスすることができます。ベルトやネクタイ、スカーフなどの収納にも威力を発揮。

新たな使い途で、お役立ち

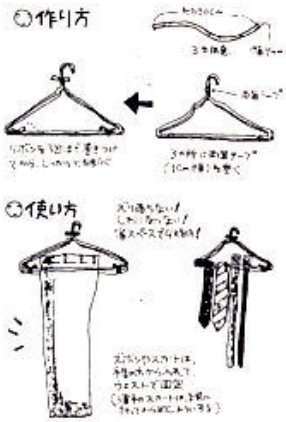
リモデル

[苺パック]

葉っぱを敷いて、素敵な緑の鉢に

●苺やしめじなどのパックは透明なので、緑の葉をパックの中に敷き詰めれば、外側から葉が透けて見えるきれいな緑色の鉢に変身。緑の葉は保水効果もあるので、ときどき水を足せば結構な期間楽しませてくれますよ。

(イラスト補足)
緑の鉢：葉を敷き詰めたら土を盛る
ハンカチカバーの鉢：外側になる方の底からハンカチで覆い、四隅をパックとパックの脚にはさみ込む。



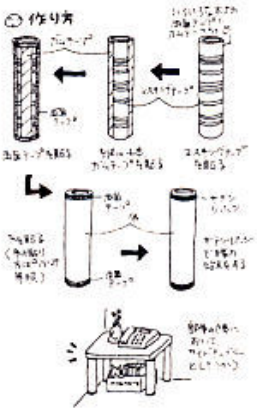
手を加えたら、新たに変身

リフォーム

[両面テープとガムテープの芯]

たくさん重ねて、サイドテーブルの脚に

●ガムテープなどはメーカーによる直径の差はほとんどなく、とても丈夫なので、重ね合わせればサイドテーブルの脚にすることも！上に乗せる板は、汚れていても布で覆えばきれいになります。



(イラスト補足)
4本とも同じ高さに芯をつなぎ、ガムテープで補強。脚全体を右で覆う時、横幅の折り返し分は約2cmプラスして裁ち、両面テープで始末しておく。

あなたのご意見をお寄せください

このページは、ごみに関する自由な発言コーナーです。どなたでもどんなご意見でも歓迎します。京都市ごみ減量推進会議までお手紙をどうぞ。

〒604-8571　京都市中京区寺町御池
京都市清掃局
ごみ減量リサイクル推進室内
☎ 075-222-4091

京都市ごみ減量推進会議 会報「ごみを減らそう!!」NO.4
1998年（平成10年）2月発行
編集発行　京都市ごみ減量推進会議

エコペーパー100（新聞古紙100%再生紙、白色度60）を用いています。